

社会資本総合整備計画 事後評価シート

安心・安全で賑わいのある快適都市の充実

令和5年3月

愛知県東海市

評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県		市町村名	東海市		計画名	安心・安全で賑わいのある快適都市の充実			面積	—						
交付期間	平成30年度～令和4年度		事後評価実施時期	令和4年度		全体事業費	21,257	国費率									
1)事業の実施状況	事業名																
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	・都市再生整備計画事業(都市再生:都市拠点周辺地区都市再生整備計画事業) ・都市再生整備計画事業(都市再生:保健医療福祉拠点周辺地区都市再生整備計画事業(都市再構築)) ・道路事業(街路:太田川北線(地中化事業)、東海太田川駅周辺土地区画整理事業、(都)養父森岡線、(都)横須賀駅西通線) ・道路事業(道路:元敷下1号線、市道三ツ池線始め10路線、市道石田線始め2路線、市道太田川駅前通り線始め6路線、市道向山南北線始め10路線、市道冬至池南線始め2路線、市道順見4号線、市道東扇廻間1号線、市道八丁ヶ根1号線始め2路線) ・市街地整備事業(都市交通:都市・地域交通戦略推進事業(公共通路整備)、都市・地域交通戦略推進事業(鉄道施設整備))														
		効果促進事業	調査計画(社会資本整備総合交付金事業効果分析)(事業効果分析)														
	当初計画から削除した事業	基幹事業	—		—		—		—		—						
		効果促進事業	—		—		—		—		—						
	新たに追加した事業	基幹事業	・道路事業(道路:市道元浜加木屋線、市道南柴田8号線始め2路線、市道元浜線、市道新池線、西知多道路大田インターチェンジ1号線始め3路線(大田IC関連工区)、市道西御門3号線始め4路線									市街化区域編入等の都市計画決定の進捗に合わせて、事業の位置付けを行ったもの。		目標、数値目標への影響はなし			
効果促進事業		—		—		—		—		—							
交付期間の変更	当初	平成30年度～平成34年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		元号の修正であるため特になし。											
	変更	平成30年度～令和4年度															
2)社会資本総合整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期				
	指標1	生活環境の向上による満足度	%	54.8	基準年度	H27(H28当初)	60.0	R4	モニタリング	評価値	59.9	60.1	○	あり	道路整備によるアクセス性の向上や電線類地中化による、景観が改善されたことが、快適な生活空間の向上による満足度に寄与したと考えられる。	令和6年7月	
																	なし
																	あり
指標2	鉄道主要駅における乗降客数	人/日	49,518	基準年度	H27(H28当初)	49,518	R4	モニタリング	評価値	42,679	46,569	△	あり	なし	令和6年7月		
																あり	●
指標3	車での移動に満足している人の割合	%	72.1	基準年度	H27(H28当初)	75.0	R4	モニタリング	評価値	73.6	73.5	×	あり	なし	●	目標値には達しなかったが、令和4年度に開通した(都)名古屋半田線や、今後完了予定の(都)養父森岡線を始めとした道路事業により、市内道路のネットワークが強化され、満足度が向上すると考えられる。	令和6年7月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期				
	その他の数値指標1	日常生活の移動がしやすいと思う人の割合	%	57.3	基準年度	H29			モニタリング	評価値	63.1		あり	●	東海太田川駅周辺土地区画整理事業や道路整備事業により公共交通機関や自動車での移動の利便性が向上し、日常生活の移動がしやすいと思う人の割合が高まったと考えられる。	令和6年7月	
4)定性的な効果発現状況	特になし																
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況									今後の対応方針等				
	モニタリング	令和3年度にモニタリングを実施し、モニタリングシートを作成した。		社会資本総合整備計画に記載し、実施できた 社会資本総合整備計画に記載はなかったが、実施した 社会資本総合整備計画に記載したが、実施できなかった									● 今後も定期的に指標の推移を確認する。				
		住民参加プロセス	【実施頻度】年1回【実施時期】平成30年度～令和4年度(継続) 【実施結果】まちづくりニュースを発行・ホームページへ掲載し、事業の進捗状況や事業完了までの流れを住民に説明することで、情報発信を行った。		社会資本総合整備計画に記載し、実施できた 社会資本総合整備計画に記載はなかったが、実施した 社会資本総合整備計画に記載したが、実施できなかった									● 今後も定期的に事業の進捗状況を住民に周知し、まちづくりへの理解と協力を促進する。			
持続的なまちづくり体制の構築	都市再生推進法人である㈱まちづくり東海と連携し、にぎわいづくりのための太田川駅周辺でのイベントを実施する等、官民連携による持続的なまちづくり体制を構築している。		社会資本総合整備計画に記載し、実施できた 社会資本総合整備計画に記載はなかったが、実施した 社会資本総合整備計画に記載したが、実施できなかった									● 今後も引き続き、㈱まちづくり東海等と連携して、にぎわいのあるまちづくり体制を維持する。					

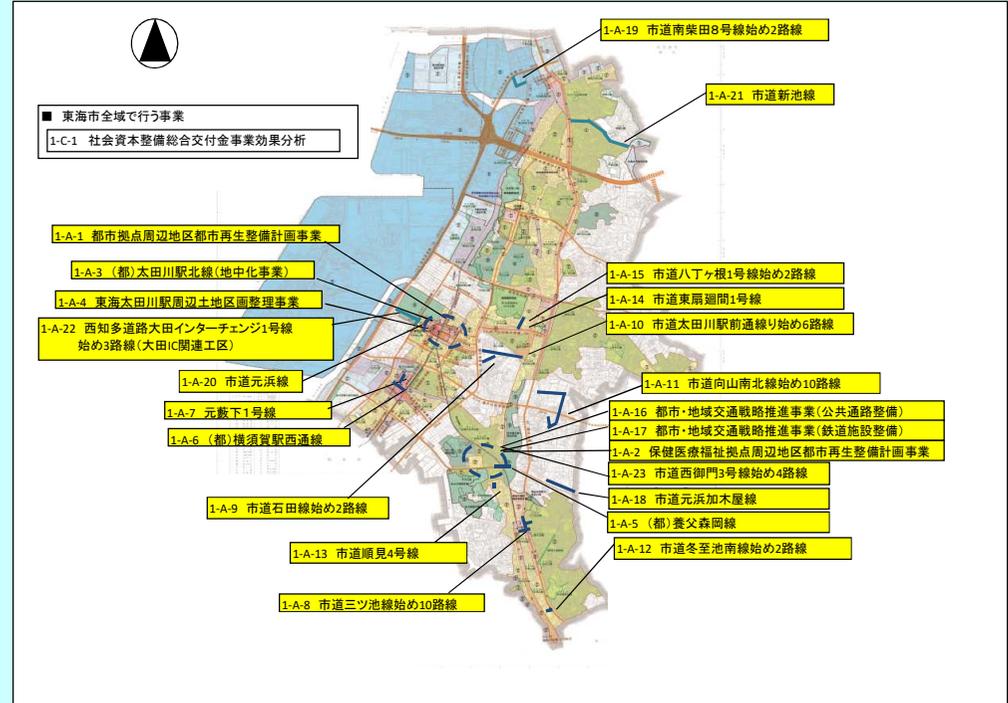
地区の概要

計画名(愛知県東海市) 社会資本総合整備計画の成果概要

計画の目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
目標 ・市の玄関である太田川駅周辺の土地区画整理事業などの整備を行い、持続的な賑わいを創出する都市拠点の充実を図るとともに、住民の安全・安心で快適な住環境を整備する。 ・新駅の設置に伴う駅前広場や周辺の道路等の基盤整備を行い、住民が心地よく暮らすことができる新たな市街地を形成する。	生活環境の向上による満足度	%	54.8 (H27 (H28当初))	60.0 R4	60.1 R4
	鉄道主要駅における乗降客数	人/日	49,518 (H27 (H28当初))	49,518 R4	46,569 R4
	車での移動に満足している人の割合	%	72.1 (H27 (H28当初))	75 R4	73.5 R4



東海太田川駅周辺土地区画整理事業



■ 東海市全域で行う事業

1-C-1 社会資本整備総合交付金事業効果分析

1-A-1 都市拠点周辺地区都市再生整備計画事業

1-A-3 (都)太田川駅北線(地中化事業)

1-A-4 東海太田川駅周辺土地区画整理事業

1-A-22 西知多道路大田インターチェンジ1号線始め3路線(大田IC関連工区)

1-A-20 市道元浜線

1-A-7 元藪下1号線

1-A-6 (都)横須賀駅西直線

1-A-9 市道石田線始め2路線

1-A-13 市道順見4号線

1-A-8 市道三ツ池線始め10路線

1-A-19 市道南柴田8号線始め2路線

1-A-21 市道新池線

1-A-15 市道八丁ヶ根1号線始め2路線

1-A-14 市道東扇廻間1号線

1-A-10 市道太田川駅前通線り始め6路線

1-A-11 市道向山南北線始め10路線

1-A-16 都市・地域交通戦略推進事業(公共通路整備)

1-A-17 都市・地域交通戦略推進事業(鉄道施設整備)

1-A-2 保健医療福祉拠点周辺地区都市再生整備計画事業

1-A-23 市道西御門3号線始め4路線

1-A-18 市道元浜加木屋線

1-A-5 (都)養父森岡線

1-A-12 市道冬至池南線始め2路線

(都)養父森岡線



凡例

■ 基幹事業

□ 提案事業

課題の変化

【達成されたこと】

- 駅を中心とした周辺の利便性向上と同時に、電線類地中化事業により快適な景観形成が図られた。また、どんでん広場や大屋根広場でのイベント開催による交流の空間ができたことにより賑わいの場としての役割が形成された。
- 公立西知多総合病院の整備により知多半島医療圏北西部における中核病院としての役割を果たしている。また、様々な世代の住民が利用可能な生活サービス施設が従前よりも充実した。

【残された未解決の課題】

- 太田川駅周辺の拠点性をさらに高めるため、駅の西側も含めた基盤整備の推進と東側の未整備箇所の整備が必要である。
- 太田川周辺の公園緑地等の身近な緑等の資源のネットワークのさらなる強化を図ることが必要である。また、持続可能な賑わい創出に向け、太田川駅・尾張横須賀駅の双方の拠点性を高め相乗効果から人の流れを創出することが求められる。
- 引き続き、周辺の基盤整備の推進が必要であり、早めの事業進捗を図ることが求められる。

今後の社会資本整備の方策(改善策を含む)

【効果を持続させるために行う方策】

- 都市計画道路、都市公園等の未整備箇所の整備を進め、都市基盤の充実を図る。
- 太田川駅・尾張横須賀駅・大田川一帯の景観形成により、歩行空間確保によるネットワークの強化を図るとともに、賑わい創出の効果を促進させる。
- 様々な世代の住民が利用可能な生活サービス施設の充実を図ることで誰もが住みやすい市街地の形成を図る。

【改善策】

- 太田川駅周辺の未整備箇所を整備することで拠点性の向上を図るとともに、尾張横須賀駅の拠点性も高め、相乗効果を期待する。
- 大田川沿いのエコプロムナードの整備に加え、ポケットパークの整備等を行い、各駅の地区拠点を中心に歩行者の利便性・まちの回遊性の向上を図る。
- 計画で定められたスケジュールに対して早期整備を心掛ける。